



常設委員会活動のご紹介

環境委員会

環境委員会委員長を務めさせていただいておりますニプロファーマの前田でございます。

環境委員会活動について報告をさせていただきます。

現在、会員会社 42 社から 17 名の委員メンバーで構成されており、委員会は年 4 回程度開催し、その他経団連および外部団体の研修会等にも参加交流をしています。

◆ 日本製薬団体連合会との連携

日薬連環境委員会と活動を連携し、経団連が主導する環境自主行動計画である地球温暖化対策ならびに省資源・廃棄物対策を主体に取り組み活動をしており、厚生労働省や経団連を始めとする外部業界団体や協議会も含めて環境保全活動に取り組んでいます。

最近の活動状況は以下のとおりです。

1. 地球温暖化対策

「温暖化対策の流れ」

- ステップⅠ 省エネルギー社会 ～ 2010 年
 - ・化石燃料に依存
 - ・経済成長が主、環境社会はブラウン経済
- ステップⅡ 低炭素社会 ～ 2030 年
 - ・再生可能エネルギー導入、インフラ整備等
 - ・グリーン経済への移行期(経済・環境・社会)
- ステップⅢ 脱炭素社会 ～ 2050 年
 - ・脱炭素社会構築
 - ・グリーン経済の確立

経団連が示す自主行動計画として日薬連傘下団体として、平成 20 年度から環境自

主行動計画フォローアップ調査に毎年参加をしています。

2013年度からは、従来の自主行動計画から低炭素社会実行計画に移行し、環境委員会として「2020年度二酸化炭素排出量を、2005年度排出量を基準に売上高原単位で23%削減する」を目標に掲げ、引き続きフォローアップ調査にも継続参加し、その後厚生労働省および経団連によるヒアリング検証が行われるなど、計画達成に向けた積極的な取り組みが期待されております。

今後、数量シェア80%およびロードマップ促進における今後のエネルギー需要として、ますます増加の一途も予想され、ならびに生産効率改善も併せて、引き続き努力をいたしております。

2. 省資源・廃棄物対策

「省資源・廃棄物対策の流れ」

- 2007年 環境自主行動計画 / 循環型社会形成編へ改編
第二次目標「2010年度最終処分量 1990年度実績 86%減」
- 2010年 第三次目標「2015年度最終処分量 2000年度実績 65%程度減」
- 2016年 名称を「循環型社会形成自主行動計画」に変更して継続
第5期自主行動計画
- 2020年 廃棄物再資源化率 55%以上

医薬品業界は、数量シェア80%を目指すために生産エネルギー同様に年々増大するとともに廃棄物発生量も2010年以降増加傾向にあります。

一方で、最終処分量も拡大傾向にあり環境委員会も日薬連と連携し、フォローアップ調査に平成19年から参加しており、会員会社皆様のご協力もあって昨年度に引続きアンケート調査100%回収を達成いたしました。年々さらに増え続けるものと予想もされている中、資源の限られた日本国において循環型社会形成は重要な課題であり、一層3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進を進めるべく努力をしています。

その他、医療系廃棄物対策などの製薬事業固有の課題や生物多様性への取り組みなどの環境課題の重要性が増してきており、こうした課題に対する社会的な要請にも積極的に社会的責任を果たしてまいります。

3. ワーキンググループ設置

2014年度から環境委員会内に、地球温暖化対策および省資源・廃棄物専門のワーキンググループを設置し、年度アンケート調査の回収、集計、分析、年間報告書の作成を中心となってフォローアップ作業を行っています。

4. 情報共有

経団連または厚労省など環境関連の定例会ならびに研修会など、適宜参画し、その情報を各委員会へ報告いたしました。さらに環境委員会内で外部協力会社による省エネ講座等も開催し、幅広く知識研鑽に務めております。

5. 啓発活動

毎年の推進キャンペーン活動として、環境ポスターに掲載する「キャッチコピー」を各会員会社から公募し、環境ポスターを各会員会社に配布して、環境問題への取り組みアピールをしています。

以上のように、環境委員会は、今後も諸団体と連携し環境関連を取り巻く課題に積極的に取り組んで参ります。

今後とも、環境委員会の活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

環境委員会委員長 前田 淳 (ニプロファーマ)